

おおさきグリーン・ツーリズム推進協議会（大崎町）

概要

おおさきグリーン・ツーリズム推進協議会では、平成 24 年から民泊型修学旅行の受入を行うなど活動を行っているが、コーディネート組織を通じての受入ということもあり、この面で受入校数が減少すると活動が停滞してしまうという問題点を抱えている。

取組状況

本年度は、(1) 研修を通じたファンづくり (2) 郷土料理伝承活動 (3) 地域資源発掘研修 (4) おおさきを知ってもらうモニターツアー の大きく 4 本の柱を掲げ活動を行った。(1) の研修については宮崎県高千穂に赴いた。交通的にも不便な地域、かつ人口 100 人の集落にも関わらず、年間 2000 人の宿泊、30000 人の交流人口があるという話に「言い訳ができない」と感じるとともに、大崎の資源の豊富さを再認識した。山菜にしても米にしてもストーリーをつけ、ありきたりのものは出さないという心がけが宿泊者に満足を与えていると実感した。

(2) に関しては、料理の研究会を毎月 1 回行っている。おいしいものがあれば、人は二度三度と足を運ぶ、との考えからである。また近年修学旅行の受入が少ないこともあり、協議会の活動として、身近なところから実施できればという思いもある。

(4) のモニターツアーは、12 月 16 日に実施、鹿児島県内外から当初予定定員 20 人を上回る 28 名の参加があった。このツアーにあわせて地域の特産品でおもてなしをしたいと「いちごかるかん」を考案し参加者に提供したところ、好評をいただいた。アンケート結果などからは、現地集合型で実施した点がよく、県外からの参加を可能にしたと分析される。

協議会自体の活動の活性化のため、PR 活動も行っている。昨年度まではふるまいの品（お土産）を渡すだけになってしまい、PR に繋がっている実感がもてなかったが、今年度からは PR ビデオを見てくださった方に、かるかんとお茶をふるまうことで、協議会の取り組みをしっかりと伝えられる場となった。また協議会でおもてなし等に関する研修会の案内をすると、人が集まるようになったのも地域全体としての意識の高まりと感じている。

今後の展開

(3) に関しては、町外での研修事業（「ムラの旨食」研修会、志布志市モニターツアー、大隅魅力発見研修等）に積極的に参加することで、自分たちの地域に置き換え、身近にあるものをいかに無理なく体験活動・受入手段として磨き上げられるかについて考えるきっかけとなった。町内魅力発見研修も実施し、次年度の活動に活かしていければと考えている。



ここがキラリ☆ 大崎町の取組

町外の研修等にも積極的に参加し、良いところを素直に参考にして自分たちでアレンジし、どんどんバージョンアップしていく頼もしい協議会です。また、「志布志市と大崎町は隣接地にあって本事業に同時に取り組んでいるので、なにか連携ができれば」と話す会長の龍相さん。連携上手の人柄が垣間見えます。